

## 第52号 「楽」

私の専門教科である「音楽」という字は、音を楽しむと書きます。数学や化学は、同じガクでも学ぶと書きますが、音楽だけは楽しいという字を使います。人によっては音が苦しいと書いて「音が苦」という人がいるかもしれません。私も苦しかったことはたくさんありますが、それはそれとして、一般的に音楽は楽しく喜びを感じるものと言われています。自分で歌ったり人と一緒に演奏したり、自分を表現するって本当に楽しい。演奏が苦手でも、好きな音楽を聴くとことを楽しみにしている人は多いと思います。

ところで、この「楽」という字は「ラク」とも読みます。日本語は複雑で、同じ字でも読み方が異なる漢字がたくさんあります。さらには読み方が違うと意味も異なったりします。では、「たのしい」と「ラク」の意味はどう違うのでしょうか。

ある辞書によると、「楽しい」とは、心が満ち足りてうきうきするような気分のこと。面白いに近いイメージかもしれません。「ラク」とは、心身に苦しみがなく苦勞せず簡単にできること、と書いてあります。理想は、楽しくてかつラクが良いとは思いますが、人生はそう甘いものではありません。

女子選手として陸上競技初の金メダルを2000年のシドニーオリンピックのマラソンで獲得し、国民栄誉賞を授与された高橋尚子さんが、シドニー優勝直後のインタビューで、「すごく楽しい42キロでした」と語りました。もちろん走ること自体が好きなのですが、優勝のプレッシャーに耐え、そしてそれまでの過酷な練習に耐え、しかもフルマラソンの42.195キロを走り終えた直後のインタビューです。苦しかったはずなのに、楽しかった？…私は当時、まったく理解できませんでした。我々とは別次元の人なのだと感じました。しかし、私も人生経験を重ねていくにつれ、本当の楽しさというのは、その一瞬一瞬が楽しいだけではなく、様々な困難を乗り越えたからこそ味わうことのできる感情なのだと改めて思うようになりました。高橋選手の言葉に隠された思いを少しは感じられるようになってきたと思っています。

人によって異なるとは思いますが、人生経験の浅い若者は、周りに流されやすく、自分の目標を自分自身で下げてしまうことがあります。楽しいとラクを同じことと勘違いし、ラクな道を選ぼうとしがちです。頑張り続ければ本当の意味での楽しい世界を見るチャンスが訪れる可能性を自分自身で潰すことのないよう、我々は大人として、そして教師として、「楽しい」の本当の意味を繰り返し伝えていかなければならないと感じています。